

事業番号	02 05 01	事業改善シート（28年度実施事業分）		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	信州まつもと空港活性化事業費			担当課	部局	企画振興部	
総合5か年計画	プロジェクト	農山村産業クラスター形成プロジェクト		課・局・室	松本空港利活用・国際化推進室		
	施策の総合的展開	5-1 高速交通・情報通信ネットワークの充実 3 信州まつもと空港の活性化		E-mail	airport@pref.nagano.lg.jp		
人口定着・確かな暮らし実現総合戦略	信州創生の基本方針	5 賑わいある快適な健康長寿のまち・むらづくり		実施期間	H6 ~		
	施策展開	4-(1) 確かな暮らしを支える地域構造の構築 (ア) 地域に必要なサービス・交流機能の確保					

1 事業の概要

目指す姿	信州まつもと空港にかかる広報宣伝と利用者・旅行会社等への支援を関係機関と連携して取り組み、信州まつもと空港発着の国内定期便の安定的な運航の確保及び増便を目指す。 成果目標：信州まつもと空港利用者数 76千人(H23)→130千人(H29)		
現状（予算編成時）	○平成26年度の信州まつもと空港発着定期便（福岡線・札幌線）の利用者数は、FDA就航以来最高の86千人となった。 ○福岡線については、H27.3.29より複便化が実現し、上半期(H27.4月～9月)において、利用者数は前年度に比べ1.5倍となっているが、利用率は58.6%にとどまっている。 ○札幌線については、夏季(H27.7月～9月)の利用率は87.7%と高い一方、冬季(H26.11月～1月)の利用率は67.0%と落ち込む傾向にある。		
県が関与する理由	県でなければ実施不可（その他）	【左記の説明、根拠法令等】 市町村・経済団体とともに、県営空港の活性化に向けて県が主体的に取り組む必要がある。 信州まつもと空港利用促進協議会規約	
県民との協働による実施：実施は困難			

成果目標・事業内容	① 成果目標 (H28)						
	○定期便等の利用者数：120千人 (設定理由：空港の利用状況を表す定期便、季節運航便及びチャーター便の利用者数について、定期便、季節運航便の利用率向上を目指し120千人と設定) ○定期便の利用率 70% (設定理由：路線の拡充及び福岡線複便化の維持を図る際の目安として、定期便利用率を70%と設定)						
	② 事業内容 (単位：千円)						
	項目	実施方法	H28事業実績		H28		H29
				(当初)	(決算)	(当初)	
	1. 信州まつもと空港利用促進協議会負担金	負担金	負担先：信州まつもと空港利用促進協議会 ①定期便の利用拡大 ・各種メディアを活用したプロモート企画の実施 ・旅行商品の造成支援 ほか ②季節運航便の利用者確保 ③チャーター便の運航支援 ④空港アクセスの向上 ・空港－松本BT間のシャトルバスの運行支援 ⑤旅行会社に対する商品造成支援、航空会社に対する空港施設使用料等の支援、エアライン商談会への参加(11月補正分)	20,100	25,369	35,900	
	2. 空の日事業負担金	負担金	負担先：スカイフェスティバルin松本実行委員会 「スカイフェスティバルin 松本」の開催	300	300	300	
			合計	20,400	25,669	36,200	

事業コスト	区分(単位：千円)	27年度	28年度	29年度	成果目標の達成状況											
	予算額	前年度繰越				項目	H26末	H27末	H28			H29 目標				
		当初予算	20,400	20,400	36,200				目標	成果	達成状況					
		補正予算		9,769					信州まつもと 空港利用者数	96.8千人	116.5千 人		120千人	124千人	達成	130千人
		合計(A)	20,400	30,169	36,200											
	Aの財源	一般財源	20,400	30,169	36,200	国内定期便 利用率	73.2%	61.8%	70%	64.7%	未達成	70%				
		県債				商談会 交渉件数	-	-	15件	15件	達成	-				
		国庫支出金				国際チャーター 便就航件数	-	-	6便	0便	未達成	20便				
		その他	0	0	0											
	決算額(B)	20,400	25,669													
概算人件費	職員数(人)	3.00	3.00	5.00												
概算人件費(C)	24,828	23,742	39,570													
概算事業費(B(A)+C)	45,228	49,411	75,770													

目標に対する成果の状況	利用者数は、前年度より増加し、目標を達成することができたが、利用率は前年度より増加したものの、熊本地震の影響もあり目標を下回った。 商談会の交渉件数は、3月に行われた国際的なエアライン商談会において、海外の航空会社15社と商談を行い目標を達成できたが、国際チャーター便の就航件数は、就航予定であった便の延期等により未就航となり、目標を達成することができなかった。
-------------	--

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 福岡線の利用拡大に向けて、九州からの誘客促進のPR強化等により、更なる需要の掘り起こしに取り組むとともに、季節運航便として4年目となる大阪線は、運航情報の周知などの利用促進策を展開し、運航期間の拡大、通年運航の実現に繋げていく。 国際チャーター便については、航空会社に対して就航の働きかけを継続的に行い、就航実績を積み上げていく。
--------------------	---